



2019

内容見本

はなごよみ

目次

漢字ミュージアム探訪記	押井徳馬	3
二〇一八年國語問題關聯ニュース	押井徳馬	8
あなたの二〇一九年は何の元年？	押井徳馬	10
仮名遣の使ひ方	名賀月晃嗣	17
用言活用表	押井徳馬	21
口語に混ぜたい文語表現	押井徳馬	26
現代かなづかい前史	押井徳馬	31
豫言と預言	平頭通	41
事業休止！ どうなる「契沖」？	押井徳馬	55
五月三十日	絲	61
うまい韓国中華	明日楨悠	62
歩みの念 第三章	明日楨悠	70
原稿を書いてみませんか	明日楨悠	100

表紙

コシヌケ1040

漢字

ミュージアム探訪記



漢字ミュージアム。京都の祇園四條驛から歩いてすぐ。



「漢字5万文字タワー」がお出迎え。大半は知らない漢字。



あなたの二〇一九年は何の元年？

押井徳馬

二〇一八年十一月二十四日～十二月十日まで、インターネットで「正字正かな（旧字旧かな）」についてのアンケートを実施しました。インターネット上、それも私を知る人が多めであるので「偏りなく集められたサンプル」ではなく、飽くまでも「参考程度」ですが、興味深い結果が出たので紹介いたします。

あなたは正漢字（旧漢字）で文章を書きますか。

毎日	六人	二二・二%
時々	五人	一八・五%
たまに	四人	一四・八%
ほとんど書かない	十二人	四四・四%

二十七件の回答

あなたは歴史的仮名遣で文章を書きますか。

毎日	十一人	四〇・七%
時々	六人	二二・二%
たまに	四人	一四・八%
ほとんど書かない	六人	二二・二%

二十七件の回答

正漢字（旧漢字）や歴史的仮名遣で文章をお書きの方に質問です。正漢字（旧漢字）や歴史的仮名遣で書くのは、どんな内容ですか。（複数回答可）

昔の文章の引用	九人	四〇・九%
---------	----	-------

二十二件の回答

仮名遣の使ひ方

名賀月晃嗣

■はじめに

筆者がどのやうな経緯で歴史的仮名遣で書くやうになつたかについては、『正かなづかひ 理論と実践』第六号に『歴史的仮名遣に纏はる思ひ出』といふ文章を書いた。同じことを繰り返すのは気が進まないもので、本稿では主として現状について記してゆきたいと思ふ。

■歴史的仮名遣で書く理由

なぜ歴史的仮名遣で書くのか。正直を言へば、そんなことを訊かれても、困つてしまふ。日本語は歴史的仮名遣で書くのが本来ではないか。何が悲しくて「現代仮名遣」の如き紛ひ物を使はねばならぬ。

と吐き捨てたいところだが、それでは乱暴なので、もう

少し叮嚀に述べるとしよう。

筆者には懐古趣味もなければ美文への志向といふものもない。古くても良いものはなるべく遣さねばならないくらい。のことは思つてゐるが、新規の物が好きなのは否定できず、新しい計算機や電子機器の類を手に入れば、それを弄り回すのが愉しくて仕方ないといふ性分である。文章の美醜についてはそもそも良く分らない。

筆者が最初に歴史的仮名遣の方が「現代仮名遣」よりも優れてゐると感じたのは、文法との整合性である。五段活用と四段活用の活用表を見比べてみれば良い。五段活用の活用表だけを見れば、打ち消しの形と推量の形をどうして同じ未然形に括るのか、さつぱり訣が分からぬではないか。四段活用の表を見たとき、なるほど実はかうだったのか、

用言活用表

押井徳馬

動詞

文語				口語			
四段	四段	四段	活用	四段	四段	四段	活用
ラ	マ	バ	行	ラ	マ	バ	(歴)行
切	読	忍	語幹	切	読	忍	語幹
ら	ま	ば	未然	ら*	ま*	ば*	未然
り	み	び	連用	り	み	び	連用
る	む	ぶ	終止	る	む	ぶ	終止
る	む	ぶ	連体	る	む	ぶ	連体
れ	め	べ	已然	れ	め	べ	仮定
れ	め	べ	命令	れ	め	べ	命令
四段	四段	四段	活用	四段	四段	四段	活用
ラ	マ	バ	(歴)行	ラ	マ	バ	(現)行
切	読	忍	語幹	切	読	忍	語幹
ら	ま	ば	未然	ら*	ま*	ば*	未然
り	み	び	連用	り	み	び	連用
る	む	ぶ	終止	る	む	ぶ	終止
る	む	ぶ	連体	る	む	ぶ	連体
れ	め	べ	已然	れ	め	べ	仮定
れ	め	べ	命令	れ	め	べ	命令

口語に混ぜたい文語表現

押井徳馬

文

語体と口語体を混ぜてはいけない、とはよく聞く言葉です。特に短歌や俳句の世界となると、文語体な

ら文語体で、口語体なら口語体で統一するのが良いとされます。

その一方で、私達が日常的に綴る口語文の中にも、未だに文語的な表現が多用されてゐる事にお気付きでせうか。

「あり・なし・同じ」も文語？

昭和三十五年に文部省から発行された「公用文の書き方―資料集―」の十四ページには、公用文の文体について「文語脈の表現はなるべくやめて、平易なものとする。」とあります。気になるのは口語化の例外として「あり・な

し・同じ」が挙げられてゐる事です。確かに、口語では「ある・ない・同じい」です。

え？「同じい」なんて見た事も聞いた事もないつて？

広辞苑によると、「同じ」は、名詞としては『形容詞「おなじ」が体言化したもの』（筆者註・終止形が「じになるのは文語のシク活用）、形容詞としては『口語では「同じい」という形であるが、現在はほとんど使われず、連用形「おなじく」が残る。』とあります。驚きですね！

特徴的な語尾

文語なのか口語なのかは、語尾で見分ける事が出来る事もあります。「やや文語的」なものもありますが、口語には

ない、明確な文語の活用であれば「文語」と断定出来ます。

くからず、くしからず 少なからず 悪しからず（やや文語的）

くかれ、くしかれ 良かれと思つて 事なかれ主義（形容詞の命令形）

くき、くしき 高き 今は亡き 良き 悪しき ゆゆしき 美しき 麗しき

くざる 招かれざる 言はざるべきか

くし 多し 危ふし 良し 悪し 時既に遅し 恨めしや

命短し恋せよ乙女 恋はやさし野辺の花よ（歌詞の引用）

くじ 忘れじの

くす 君を愛す ガルマ出撃す

くず 開かずの扉 なきにしもあらず（やや文語的）

くぞ これぞ 神のみぞ知る

くたし 来られたし

くたらん 紳士たらん

くたれ 堂々たれ（形容動詞の命令形）

くつ、くつつ 持ちつ持たれつ 抜きつ抜かれつ 組んづ

解れつ 行きつ戻りつ 行きつつ（やや文語的）

くども（ど） 言へども 行けども 押せども引けども

くなかれ 驚くなかれ 事なかれ主義

くなる 主なる いかなる 必要なる

くなれ 永遠なれ（形容動詞の命令形）

くぬ 良からぬ 少なからぬ えも言はれぬ

未然形＋ば すきあらば 言はば さらば 通らばリーチ

くべからず 入るべからず

くべき すべき 論すべき

くべく なるべく すべて

くべし 見るべし すべて 推して知るべし

くまじき あるまじき 言ふまじき

くや 言はんや

くゆ、くゆる（下二段活用） 敵艦見ゆ オホーツクに消ゆ

燃ゆる本能寺

くれり 時は来たれり ここに極まれり

なほ、次の言葉は公文文や学校教育やマスメディアでの口語文では避けられがちですが、歴とした口語表現です。文語では「くしむ」「くせしむ」「くせらる」になります。

くしめる 死に至らしめる 艦隊攻撃を行はしめる

漢語＋せしめる 活動せしめる 想起せしめる

漢語＋せられる 観察せられる 活用せられる

のは止めて専門家だけに任せよう」となると、私は反対です。これまで見てきたやうに、日常の文章を新字新かな口語文で書く私達現代人でさへ、文語体から完全に逃げる事は事実上出来ません。私達が現代の日常生活でも実は文語体を頻繁に使つてゐるとなると、専門家ほどの知識は必要ないとしても、基礎知識があるに越した事はありません。

この記事で例として挙げたのは、それでも現代語で馴染み深い文語表現のごく一部に過ぎません。その他にもないか、皆さんも是非お探し下さい。中学高校時代に古文の授業で一生懸命学んだ「文語の用言の活用」などの知識が、実は身近な日常の言葉にも生きてゐる事にきつと驚く事でしょう。

最後に、この記事を執筆するにあたり、短文投稿サイト「ツイッター」で「これは口語文でもよく使ふ文語表現では」と思はれる言葉を、いろいろな方に教へていただきました(ハッシュタグ「#口語に混ぜたい文語表現」で検索可能)。この場を借りてお礼を申し上げます。

一) テレビアニメ「機動戦士ガンダム」より引用。

■あなたも変体仮名が読める

古文書の変体仮名を覚えるのは大変ですが、街中の看板やのれんに限定するなら、これだけ覚えれば大半が読めます。皆さんも挑戦してみてください。(押)

阿	以	可	久	古	左	志	楚
あ	い	か	く	こ	さ	し	そ
多	登	奈	者	婦	遍	満	
た	と	な	は	ふ	へ	ま	

※ IPAmj 明朝フォント (無料) に変体仮名が入つてゐます。

(文字コードはU+1B002 ~ U+1B11Eです)

ご興味のある方はお試し下さい。

<https://mojikiban.ipa.go.jp>

現代かなづかい前史

① 「どうして歴史的仮名遣は同じイの音が『い』『ひ』『ゐ』と、三つの書き方に分かれるのかわからない。一つにまとめた現代仮名遣いの方がわかりやすいのに」



③ 「それなら、『ゐ』『ゑ』が現代仮名遣いになくて、『ぢ』『づ』『を』が現代仮名遣いにあるのはどうして？」

② 「現代仮名遣いの『じ・ぢ』『ず・づ』『お・

を』などの書き分けと、発想は同じです。『無駄な骨折り』ではなく『言葉の組合せがわかりやすい』『言葉を見分けやすい』など、きちんと意味があるんです」



④ 「不思議ですね。

実は『ゐ』『ゑ』だけでなく、『ぢ』『づ』『を』も無くなる危機にあったのですよ。現代かなづかいは、実は明治時代からの試作を重ねて出来たものなのです」

ゐ・ゑが捨てられ
ぢ・づ・をが残った



■前島密と漢字廃止論

江戸時代末期、前島密（近代郵便制度の父と呼ばれ、一円切手の肖像にもなった）は、アヘン戦争後の清の衰退は難解な漢字のためとし、日本は漢字を廃止すべきだとする「漢字御廃止之議」を将軍・徳川慶喜に提出しました。

■明治政府による普通教育開始

政府が国語表記の標準を決めて学校教育での普及を図る時代が到来しました。当初は、大筋はこれまで通りのかなや漢字や仮名遣でした。大きく変更する理由が特になかったからです。

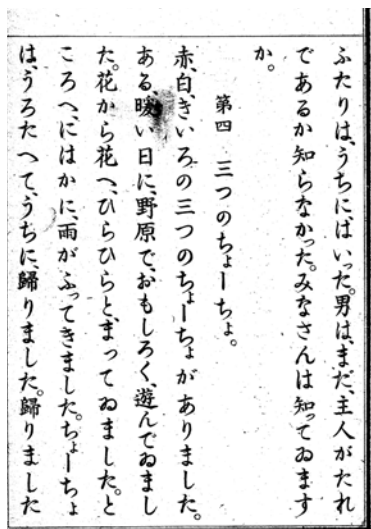
■漢字廃止と仮名遣表音化で「国語の近代化」？

日本人が驚いた西洋の文明の一つが、手早く綺麗に文章を書けるタイプライターでした。しかし漢字は数が多くてタイプライターの鍵盤で打つ事が出来ません。それに、覚えなければならぬ文字も西洋の言葉より多くて時間が掛かりました。「中国の文字を無くして、純粋な日本の言葉にする」事が一部の人の悲願となり、活発な運動が始まりました。

漢字を無くすと、これまで漢字に隠れた仮名遣が表に出て来ます。これも「覚える手間が掛かる」からと、「かなの書き分けをやめて、現代語の発音を元にしたかなの書き方にする」事を求める声が上がる様になりました。

■字音棒引仮名遣

そんな風潮の中、明治末期に、学校教科書では漢語の仮名遣のみ表音式（和語は歴史的仮名遣のまま）の教科書が作られ、数年間使用されました。伸ばす音を「ー」で書くのが不評で、以後の仮名遣改定案では、教訓からか「ー」を見なくなりました。



「尋常小学読本七」明治36(1903)

「てふてふ」でないのに注目！

言葉の履歴

豫言と預言

平頭通

最

初に、持論の展開に先立つて『廣辭苑』（広辞苑）第七版に於ける【預言】の意味を見てみませう。

【宗】(prophecy) キリスト教や啓示宗教で、神から預けられた言葉を人々に伝えること。また、その言葉。倫理的勧告や回心の呼びかけも含む。

宗教的な意味が色濃く出てありますが、其處に「あらかじめ」に該當する意味はありません。どうしてかうなつた。其の邊りの事情を少しく詳しく解説してみたのが今回の論述となります。宜しくお願ひします。

では、取つ掛りを得る爲めに『支那文を讀む爲の漢字典』を紐解くとします。【豫】の字は豕部に在ります。「●安樂なり。『逸豫』『暇豫』の如し。●早なり。事に先んじて戒備するなり。中庸、『凡事豫則立。』云々。◎（說三六九）。【預】の字は頁部に在ります。「●『豫』と同じ。『豫備』は亦た『預備』にも作り、『遊豫』は亦た『遊預』にも作る。●『與』と通ず。『干預』『參預』の如し。◎（說三三四）。『預』の字は「豫」や「與」の字の代用で使へるやうに讀めます。では、【與】の字も調べてみます。「●參預なり。『與聞其事』の如し。◎（說六六）。序でに【言】も調べておきませう。「●口が聲を發し以て意思をする所の者なり。自ら言ふを言といひ、答述するを語といふ。◎（說五六）。

と云ふ事で、全ての文字に就いて調べる事ができました。

此處で解る事は、全ての文字が許慎著の『説文解字』に掲載されてゐる文字であると云ふ事と、「預」はどうやら代用字ッばい事ぐらゐになります。

では、次の段階として、『説文解字』（説文）にどう掲載されてあるかを見てみようかと思ひます。【豫】は九下象部に「象之大者賈侍中説不害於物从象予聲羊茹切■古文、【預】は九上頁部に「安也案經典通用豫从頁未詳羊洳切」、【與】は、三上昇部に「黨與也从舛从與餘呂切■古文與」、序でに【言】は三上言部に「直言曰言論難曰語从口辛聲凡言之屬皆从言語軒切」と夫々説明されてゐます。「豫」と「與」とについては、「古文」の例が掲載される程の古い文字であるのが解ります。對して、「預」については「頁に従ふのは解らない」みたいな説明をしてゐるやうにも讀めます。此の點は後でもう一度出します。「安也」は「豫」の字の「安樂」と同じ意味と見るべきでせう。又、「古文」のやうな例も見られないので然程古い文字ではなさうです。

更に遡つてみませう。甲骨文の用例は無いかと調べたのですが、「言」以外は皆無。金文に至つてやつと「與」の用例が見られるやうな有様です。まあ、朽ち果てずに残つた記録が偶々今の世に現はれたと思へば、今記録が見出せないとしても其の文字が當時使はれてゐなかつたとは言へま

せん。私が思ふに、「豫」や「與」の字が先づ出來て其の後、各々の代用字として「預」の字が使はれるやうになつた。さうして、許慎が説文を書いた後漢の頃（二世紀の邊り）迄には關聯する全ての文字が出揃つたのだと考へられます。

文字の履歷については此の邊にして、「豫言」や「預言」の語の出典に就いて調べてみたいと思ひます。「豫言」に就いては比較的簡単に調べる事ができました。例へば『新漢語林』では次のやうに説明します。「(1)未来のことを予測していうこと。また、そのことば。(2)「国」かねごと約束のことば。前言」。で、色々な漢和辭典を調べて、幾つか用例を見出す事ができました。『漢書』の谷永傳に「臣永所以破膽寒心豫言之累年」、訓讀して「臣永膽ヲ破り心ヲ寒ウシ之ヲ豫言シテ年ヲ累ナル所以ナリ」。『後漢書』の申屠剛傳に「夫未至豫言、固常爲虛、及其已至、又無所及」、『魏志』の陳思王植傳に「兵者不可豫言」と三例程が見られます。中でも『漢書』と『後漢書』との用例が所々に散見されますから、「豫言」の語の出典は先を取つて『漢書』の谷永傳にしても何ら問題無いと判斷できます。

續いて「預言」の出典に就いてですが、此方は結構梃摺

事業休止！ どうなる「契沖」？

押井徳馬

「契沖」の抱える問題

大 きく分けて二つあります。「最新のPCでの使用に制約がある」事と「開発元が事業休止した事」です。

後者から先に説明すると、開発元の申申閣のウェブサイト (<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~keichu/>) で、「誠に申し訳(ご)さいませんが、事業主の市川浩は骨折で入院中であり、高齢であることから事業継続が困難となりましたので、事業を停止いたします。長年のご愛顧(あいぐん)ありがとうございます。(2018年2月24日)」と突然の発表がありました。それだけなら誰かがこのソフトを單(ただ)に引き継げば良いのですが、もう一つの問題があります。「契沖」は、管理工学

研究所により作られたかな漢字變換プログラム「松茸」(最終版は一九九九年)に独自の「かな漢字變換辭書」「文法辭書」を載せたもので、プログラム側の設計が古く、最新のコンピュータソフトでは使用出来ない事がある(具體的には、64ビット版ソフトで日本語入力出来ない)のです。

餘談ながら、「マック」「iPhone」「iPad」「アンドロイド」等、ウィンドウズ以外のコンピュータにも對應してゐません。「スマートフォンで正字正かな入力したい」と云ふ若者の聲を最近よく聞くので、「契沖」が對應してくれればどんなに良いだらう、と私も思ひます。



32 ビット版「ワード」
(ワープロソフト)

32 ビット版「松茸」
(かな漢字変換ソフト)

32 ビット版ウィンドウズ PC

キーボード

※コンピュータの中身は、「一の位、二の位、四の位、八の位……の各桁に一つだけ珠のあるそろばん」のやうなものです。32 個珠があるのが 32 ビット、64 個なら 64 ビットで、より多くの数を計算出来ます。

←「契沖」はこのソフトを利用

32 ビット版「ワード」
(ワープロソフト)

32 ビット版「松茸」
(かな漢字変換ソフト)

32 ビット版ソフト
との橋渡しプログラム

64 ビット版「ワード」
(ワープロソフト)

64 ビット版の
かな漢字変換ソフト

64 ビット版ウィンドウズ PC

キーボード

←今後主流に

←松茸はない

「契沖」を最新の PC で活かしたい

開発元の事業休止の知らせを聞いて、「このまま無くなつてしまふにはあまりにも惜しい」と思った人も多いでせう。私もその一人です。「契沖」は、戦前の國語教育の現役世代が作成した変換辭書で、國語改革前の時代の言葉選びの細かなノウハウが詰まつてゐるのが気に入つて、私も愛用してゐます。さて、どうすれば良いか。

もちろん、現在のソフトのまま引き繼ぐと云ふのも一つの方法です。しかし、「契沖」で日本語入力出来ない 64 ビット版ソフトが主流になる時代は遅かれ早かれ來ます。出來れば、その前に新しいコンピュータへの對應が濟んでゐるのが理想的です。

それにはどうすればいいか。現在の「契沖」の使用するかな漢字變換プログラム「松茸」の部分が 64 ビット版ソフトに對應した最新版になつてくれる事が必要です。

「松茸」の 64 ビット版は出ない

しかし、管理工學研究所はかな漢字變換システムの開發を約二十年前に終了してをり、最新版の出る氣配は全くあ

五月三十日

絲

暑い五月の日

青い若葉の揺れる下

君と語つた都市の死と

舌でとかしたラズベリイ

その甘い事、その編あまい事また春きみが来るまで 今は冬籠り

『五月三十日』は、著作権及び關聯する權利を拋棄してゐます。

詳しくは以下をご参照下さい。

<http://creativecommons.org/publicdomain/zero/1.0/deed.ja>

うまい韓国中華——丑の日の鶴橋

明日愼悠

平成最後の夏は、まるで災害のメドレーのやうであつた。大阪の北部に起こつた震度六弱の地震を皮切りに、連日の豪雨が土砂崩れや浸水を引き起こし、西日本で二百名以上の死者を出した後、やっと日の目が射したかと思へば、四十度に達する酷暑がつづき、熱中症の罹患者を膨大に増加させた。

そんな今年の七月二十日は土用の丑の日である。強暴な日照りに負けぬためにも、精のつくものを食べることが望ましい。懐の淋しい国民に向けても提供できるやう、様々な店舗がうなぎを格安で販売するキャンペーンを始めてゐる。しかしうなぎは絶滅危惧種である。立場の弱い我々はどこか同族めく。後の世にうなぎを絶やさぬためには、うなぎを模した練り物を食すか、どうしてもうなぎが食べなければ、格安で叩き売らず、仕入先も怪しくない専門店へ

行くことが肝要であるとの説もある。しかし今回の主題はうなぎではない。

同日、午後六時。梅田の紀伊國屋書店は岩波文庫の棚の前に、ひとりの青年が立つてゐた。青レンズの丸いサングラスを掛けてゐる彼は、今日のために待ち合はせてゐた筆者の友人の白玉氏である。彼は中国籍で、堅気ではないといふ話だがどこまで本当か知らない。彼が突然、「韓国流の中華料理が食べたい」と言ひ出して、鶴橋の店に筆者も連れて行ってもらへることになった日がたまたま土用の丑の日だった。そんな経緯で、今宵は白玉君が鶴橋の案内人である。

JR大阪駅へ向かふ道すがら、彼に尋ねた。
——なぜまた、韓国の中華なんですか？

「僕は朝鮮系でね。ソウルにゐた頃、食べた中華料理が、『これこれ』っていふ味付けだったんだ。舌に馴染んだっていふのかな。ジャージャー麵の黒さが恋しくなった」

——今日向かふお店には、よく行く？

「いや、初めて。ネットで調べた。鶴橋に行ったことはあるけど」

鶴橋は大きなコリア・タウンで有名である。日本の内でもかなり韓国文化の色濃い場所だ。韓国には伏日^{ボンナル}といふ行事がある。土用の丑と同じく、五行思想に基づく三伏（初伏、中伏、末伏）の日を選んで、厳しい暑さを乗り越えるべく、滋養のあるものを食べて英気を養ふための日であるといふ。丑の日のうなぎに相当する伏日の定番は参鶏湯^{サムゲタン}ださうだ。

本日は今年の初伏を三日過ぎてゐる。しかも食べるものは「う」もつかない中華料理といふことで、丑の日にも伏日にも掛からない。しかし滋養に富むのは確かだし、多様な国の文化が絡み合つてゐて乙ではないか。そこで筆者は考へた。この厳しい環境を、鶴橋の人々ほどのやうに凌いでゐるのか。そのエネルギーを、目の当たりにした儘に記さう。

——昼は何を食べました？ 僕は「うな次郎」だけだ。
「うどんにした。昨日からあまり食へてなくてさ、楽しみ

にしてたけど不味かったよ」

——さう。こっちも夏バテ防止になるかと思つたら、ここへ来る前に頭がフラフラしてきちゃって、しばらく休まないといけなかった。

「うなぎぢゃないからぢゃない」

そんなつまらない言葉を交はすほど、我々は暑熱にやられてゐた。

外回りの環状線に乗って、午後六時四十分、鶴橋駅に降りた。気温三十度。やうやく日が翳り、雲が出てゐたこともあって、だいぶ過ぎやすくなった時間帯である。

少し構内や駅周辺を見て回ると、暗くなりかけた高架下や商店街のせせこましく乱雑な雰囲気が異国的に迫つてきて魅力を感じた。いささか陳腐な発想だが、映画『ブレイドランナー』の冒頭に出てくるうどん屋でもありさうな場所だと思ひ起こした。

中央改札口を出た先の千日前通を渡り、環状線の高架橋沿ひにある駅前商店街を行き、数軒過ぎた左手の看板に、目当ての店の名がすぐ見つかった。駅から徒歩五分の「王^マ炸^{チャ}ジャン」^{チャジャン}。店先の簾には料理メニューの一覧や、食事をしてゐる人々の写真が飾られてゐる。（後で知つたところでは、これは店の料理に舌鼓をうってゐる人たちではなく、どう

歩みの念

文：明日楨悠

三

面向^{つらむ}けてあくびの平左百^{へいざさるすべり}日紅

「ふわーあ、疲^{つか}れた疲^{つか}れた。もう二、三日^{さんいち}は休^{やす}んでゐたいや」

「お疲^{つか}れ様^{さま}」

「千禰^{ちね}ちゃんもご苦^く勞^{らう}さん。女^{をんな}の子^こにや酷^{こく}だね。ほら、手^てに豆^{まめ}ができてませんよ」

「私は^{わたし}できてませんよ。ほら」

「あれあ、ほんとだ。ピカーツと白^{しろ}いまんま。見^みかけによ

らず丈夫^{ぢやうぶ}だなあ」

「若彦^{わかしち}さんこそ、意外^{いぐわい}に華奢^{けあしや}でいらっしやる。氣品^{きひん}もおありだし、もしや、相当^{さうたう}に良いところのお坊^{ぼう}ちゃまなのでは」

「な、何言^{なに}ってやんでえ。お、俺^{おれ}がお坊^{ぼう}ツちゃんだって？ そんな訳^{わけ}があるもんかい。一体^{いつたい}なんの根拠^{こんきょ}があって……」

「履物^{はきもの}を見れば分^{わか}りますよ」

「ん？」

思^{おも}はず下^{した}を向^むいた、けれども靴^{くつ}のある筈^{はず}がない。ここは下町^{したまち}の宿^{やど}、それぞれの部屋^{へや}から起^おき出^でてきて顔^{かほ}を合^あはせたばかりの朝^{あさ}の縁側^{えんがは}である。

「そんなに温々^{ぬくぬく}と履^はいてたかな」

「他^{ほか}にもありますよ。元々^{もともと}遊学^{いうがく}をなさってゐたといふものさうだし、それからこの旅^{たび}を気前^{きまへ}よくポンと決^きめられたのも」

「お客さんお客さん」と声が掛かった。

「いい草履を買ったね。ついでに傘も見ていきなよ」

傘屋の店先には番傘、蛇の目傘、唐傘以外にも蝙蝠傘が、同心円状の生地を表の通りに向けて華やかに広げられてゐる。

「こないない天気によくかうも開く気になれたもんだね。傘に用はないよ」

「まあさう言はず。後々入り用になるからさ」

「その後々までが邪魔だ」

「さう手間は取らせません。今に雨が降るよ」

「降るもんか。この快晴を見ろよ」

「いや。これあ一発来るね」

「何故さう言ひ切れる」

「こなひだの大雨で町を出るための橋が落ちたこと、忘れたかい？ お客さんもそれで足止めを食つてゐる口だらう

笑ふやつほどよく泣くもんだ。人心と天気は移ろひやすいって、相場が決まつてらあ。側にしけた面した小僧がゐたんだや、尚更だね」

と仕舞ひに憎まれ口を叩いたのは、どうやら少年と顔馴染であるかららしい。

「誰のことだ、ふざけんな！」進太郎が傘屋に食つてかかる。

「ひでえことを言ふなあ」

若彦が呆れてゐると、後ろの通りをがやがやと町人が二人、三人、四人と彼が来た方角に向かつて駆けていくではないか。何事とおもひ振り向くと、絵に描いたやうな野次馬が手を振ったり、指を差したりして左から右へ通り過ぎていく中から「事件だ、事件だ」「呉服屋さんで盗みがあったぞ」と聲に紛れて聞こえてきた。

思ふより先に進太郎は駆け出してゐた。「あ、おい待て」と若彦も足先に引つ掛けたばかりの草履でつんのめりつつ、脱兎の如く遠のく背中を追つかける。

呉服屋かんざし事件

来た道に戻つて行つた、呉服屋の門前。既に黒山の人だかりの出来てゐるところに入つていくと、犇めく影と影の向うに呉服屋主人、総之丞氏の貫禄ある姿が窺へた。その背後に控へて、押し寄せる憂ひに眼を伏せた可憐なる令嬢、縫の姿も垣間見える。

その門構へにも負けぬほど厳かな立ちの総之丞氏の濃い口髭から沈着な言葉が紡がれはじめた。

「うちの店に在する粗忽者が軽率にも世間の皆様に我が家

の椿事を言ひ広めてしまったやうなので、これ以上出鱈目の噂に発展せぬやう、私の方から事の次第を細大漏らさず正確にお伝えすることに致します。まづは何が起つたかを明らかにしておきませう。婚礼を控へた我が娘の縫が、結納品である珊瑚玉の簪を自宅で紛失したのです。盗難だといふやうに噂では出回つてゐるかと存じますが、状況からいって娘が自分の不注意により失くしたといふ線も弱く、他の何者かが取つて行つたのではないかと考へるのがまだ自然だといふ程度の事だと思つて頂きたい。續いて、その状況とは如何なるものだったかを説明致します。役者がかつてゐるほど淀みなく、総之丞氏は仔細を縷々と述べたてた。

「結納品のかんざしが紛失したのでいつ頃かは割に判然してをります。うちの者は皆、明け方に寺町から聴こえてくる鐘の音を合図に起き出すのです。縫もその頃に自室で目覚め、わが家を去る日が差し迫りおふところがあるのでせう、起きてまづ結納の包を解いて、つくづくと箱の中のかんざしを眺めてゐたのだといひます。それから縫は台所に立ち、然る後一家で朝食の席に着きました。私もその現場は確かに見てをります。そして自室に戻り、もう一度と結納の包を解いて箱を開けたところ、珊瑚玉のかんざしがもう無くなつてゐたといふのです。時間はまだ一刻も経

つてゐなかつたでせう。縫よ、これで間違ひないね」確認を取る総之丞氏に、縫は哀しみの余り言葉を失つたものか、微かに慄へながら、こくりと頷いたのみだった。「世間では盗難事件と喧伝されてをるやうですが、仮に盗みであつたにもせよ、娘の結納品を持ち去つたのはよその泥棒ではなくこの家の内にゐる者だらうと私は考へてゐるので、本件に対しては内々に処理を済ます所存でをります。よつて、お氣遣ひは無用。くれぐれも無暗に騒ぎ立てなさぬやう、謹んでお願い申し上げます。

とは言ひ条、娘のかんざしが外に持ち出されてゐる虞も無きにしても非ずですから、ここで紛失した品がどのやうなものか、改めて口頭でお伝えさせて頂きます。無くなつたのは、桜桃を象つた珊瑚玉の銀簪でありまして、夜目にも紅い巨きな珊瑚玉を双つ連ねた装飾を大胆にあしらつてをります。珊瑚の玉簪は世に数あれども、これほどに趣向を凝らした一品は中々ないので、もし余所で見つかるならば相当に目立つものと考へて頂きたい。巨きな珊瑚玉の双つ附いた銀簪であります。私からお伝えする事は以上でございますが、何かご不明の点があれば皆さんどうぞ挙手をなさつて下さい」

聴衆はそれまで呉服屋親娘の一举一動に注目しながらわいわいとざわめいてゐたが、いざ主人が質問を募ると、心

原稿を書いてみませんか

中

国語の表記に、中国本土とシンガポールでは使はれる「簡体字」と、台湾や香港では使はれる「繁体字」があるのと同様、日本語の表記にも漢字と仮名についてそれぞれ二種類あります。いはゆる「旧字」と「新字」、「旧仮名遣」と「新仮名遣」です。

いはゆる「旧字」や「旧仮名遣」は、絶滅した国語表記ではありません。過去文献の引用、短歌や俳句をはじめとした芸術において、現代でも細々と使はれてゐます。

現代において、いはゆる「旧漢字」「旧仮名遣」を読んだり書いたりする方には、様々な立場の方がいらつしやいます。

- ・過去文献の引用に限り旧字旧かなで書きたい
- ・短歌や俳句に限り旧かなで書きたい

- ・ブログや芸術作品等、私的表記は旧字旧かなで書きたい
- ・今のところ書く事はしないが、旧字旧かなで読みたい

本誌は、そんな皆さんを応援する為に、「全頁歴史的仮名遣（固有名詞や引用文は除く）の同人誌」として毎年発行する予定です。

原稿募集のお知らせ

いはゆる「旧漢字」「旧仮名遣」は、読むだけでも十分楽しめますが、実際に書いてみると更に楽しめますし、学ぶ近道でもあります。皆さんも試してみませんか。

『旧字』『旧かな』で原稿を書いても印刷を断られたり、『新字』『新かな』に直されたりする』のが残念ながら当たり

前の現在、本誌は『旧字』や『旧かな』の原稿がそのまま掲載される」のが「当り前」の、謂はば「解放区」です！

募集内容

- ・ 毎号のテーマに基づく随筆や論考等（テーマ投稿）
- ・ 漢字や歴史的仮名遣について、国語国字問題について
- ・ コンピュータで旧漢字や歴史的仮名遣を使ふテクニク
- ・ 歴史的仮名遣による詩歌、小説、随筆、漫画等の作品
- ・ 半ページ〜四分の一ページ程度の短いコラム

国語問題に関する記事が多く集まる本誌ですが、テーマや国語問題に関係しない記事もむしろ歓迎いたしますので、お気軽にお書きください。

毎年秋発行、次号〆切は、二〇一九年十月頃を予定してゐます。次号のテーマはウェブサイトで発表予定です。

なほ、執筆者や校正・組版等の作業を手伝ってください。方には、完成した冊子を一冊無料進呈致します。

投稿方法

本誌への投稿には、グループへの入会や会費のお支払い

は必要ありません（逆に、原稿料もお出しできません）。ただし、スムーズな聯絡^{れんらく}の為に、原則として電子メールアドレスをお持ちの方に限定致します。「はなごよみ」のメールアドレスまで、ご遠慮なくメールでお問合せください。原稿も、メール本文に書いていただくか、メールにファイルを添付してお送りください。なほ、記事に関するご確認のため、編輯・校正・組版担当者にメールアドレスをお伝え致しますので、あらかじめご諒承ください。

また、スムーズな編輯・校正の為、以下の情報もメールでお知らせください。

①ペンネーム

- ②掲載ご希望の方はTwitter IDや電子メールアドレス（読者からの聯絡先として、なるべくご記入ください）
- ③ジャンル（解説、評論、小説、詩歌、随筆、漫画等）
- ④内容（国語教育に関するエッセイ、学園もの小説等）
- ⑤未完成の場合は予定文字数（文字数か原稿用紙換算）
- ⑥漢字、仮名遣

（旧字旧かな・新字旧かな・広辞苑前文方式・新字新かな）

旧字旧かな

「櫻色のバッグを持つてゐる」

新字旧かな

「桜色のバッグを持つてゐる」

広辞苑前文方式

「桜色のバッグを持つて居る」

新字新かな

「桜色のバッグを持っている」

↓ 「桜色のバッグを持つてゐる」

に直して印刷

(ご)希望により新字旧かなではなく旧字旧かなにも直せます)

⑦捨て仮名(ひらがなカタカナとも使ふ・カタカナのみ

使ふ「推奨」・使はない)

ひらがなカタカナとも 「桜色のバッグを持つてゐる」

カタカナのみ使ふ 「桜色のバッグを持つてゐる」

使はない 「桜色のバッグを持つてゐる」

一)新字旧かな兼新字新かなの事。ひらがな・カタカナとも捨て仮名使用推奨。言葉選びの難易度が高いので、歴史的仮名遣に十分慣れた人向けです。

二)小さい「や」「ゆ」「よ」「う」の事。

ファイル形式

文章は原則としてテキストファイルでお送りくださるか、メール本文にそのまま書きください。ワードや一太郎等ワープロソフトのファイルでも構いませんが、文章校正機能を使用可能なワードまたはLibreOfficeを推奨します。

くの字点(ゝ・ゞ)は「／」「／」で代用しても構ひません。「旧字旧かな」をご希望の方は、コンピュータの一般的な文字コードに無い文字(二点之繞や「示」の形の示偏の漢字等)は新字で代用するか、注意書きを附加してください。編輯時に、フォントに字形のある範囲で、印刷用の正しい字形に直します。

写真やイラストや図ですが、残念ながらカラーは出ません(口絵を除く)。画像ファイルは、原則として文章とは別にお送りください(ワードで位置決めした内容をそのまま使ふのではなく、こちらで組版ソフトを使つて組み直すので、元ファイルが必要です)。また、可能な範囲で、縮小されてゐない、なるべく大きなサイズをご用意ください。なほ、本誌のサイズはA5版です。詳しくはメールでお問合せください。

著作権について

皆様の原稿は、「同人誌(紙版および電子書籍版)」の原稿として「および」必要に応じ、同人誌頒布の際の内容見本として「使用しますが、作者に許可をいただかない限りは、それ以外の目的(他の本の原稿に転用する等)」では使用しません。

また、前述の目的に限って、皆様の原稿を使はせていただきますが、原稿の著作権そのものを譲渡していただくといふ意味ではありません。後でご自分の原稿を（ウェブサイトに載せたり個人誌・同人誌・商業誌に載せる等）どう活用していただくかは、お任せします。

それでは、皆さんの作品を心よりお待ちしております。

